

石狩市指定文化財候補として検討中の考古資料（概要）

1 名称（仮称）

紅葉山 33 号遺跡出土の「漆塗り弓（飾り弓）」

2 種 別

有形文化財（美術工芸品／考古資料）

3 員 数

1 点

4 所有者・管理者

石狩市

5 保管の所在地

いしかり砂丘の風資料館

6 対象資料について

（1）概 要

紅葉山 33 号遺跡は、石狩市花川南 6 条 5 丁目の花川南公園内に位置する続縄文文化前半期の墓地である。今回、市指定文化財候補の対象とする「漆塗り弓」は、1982 年に石狩町が実施した発掘調査により確認された 32 基の墓壇の一つ（GP-46）から出土した副葬品である。

（2）資料の大きさ

全長（現存部）105 cm、幅 3cm （※発掘現場の計測値）

（3）資料の帰属時期（年代）

続縄文文化前期（約 2000 年前）

（4）資料の状態

- ・弓本体の木質部分は失われ土圧により扁平に潰れているが、弓全体に施された漆の塗膜が弓の形状をとどめた状態で残されており、外面に描かれた文様とその色相も鮮やかに残されている。
- ・保存処理は実施済。ポリエステル樹脂をアクリルケースに注ぎ、その中に弓を封入した永久保存の状態。弓の両面を観察することが可能である。

（5）市指定文化財候補として検討対象とする理由

- ・弓全体の形をほぼとどめ、加えて文様も良好に残されている。精工に仕上げた「飾り弓」で、類例は全国的にも極めて少ない。特に、巻き込みにトゲ状突起のある渦巻文様を施す例は大変希少である。
- ・当該資料の製作技術、描かれた文様の装飾的特徴は、当時の北海道・本州と石狩地域との文化交流などを考えるうえで重要な資料である。

【図版】

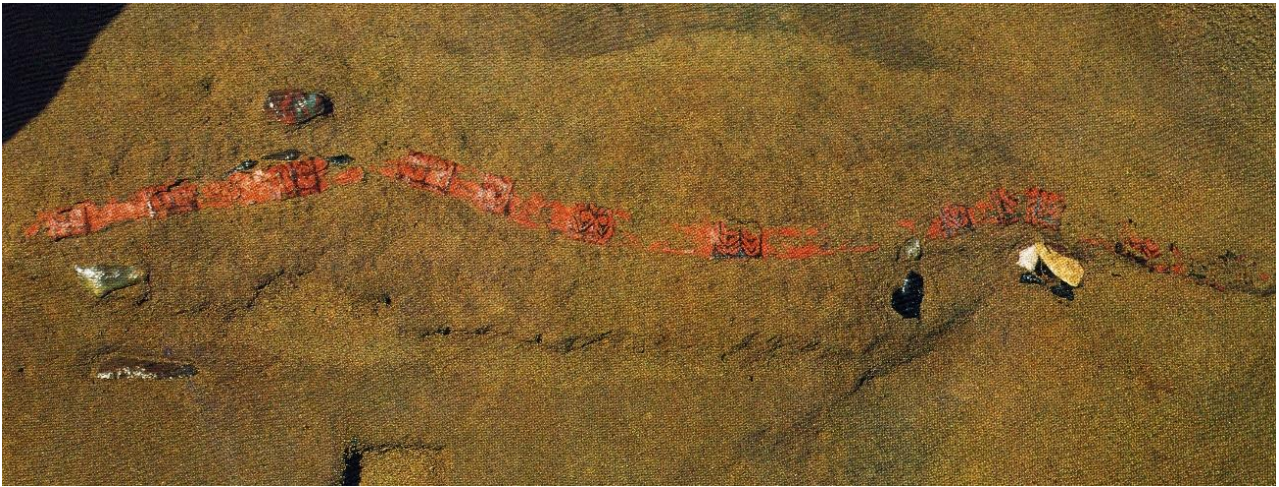


写真1 紅葉山33号遺跡 墓壙GP-46から出土した「漆塗り弓」

(画像：石狩町教育委員会 1984)



図2 「漆塗り弓」の図 (画像：石狩町教育委員会 1984 別図)

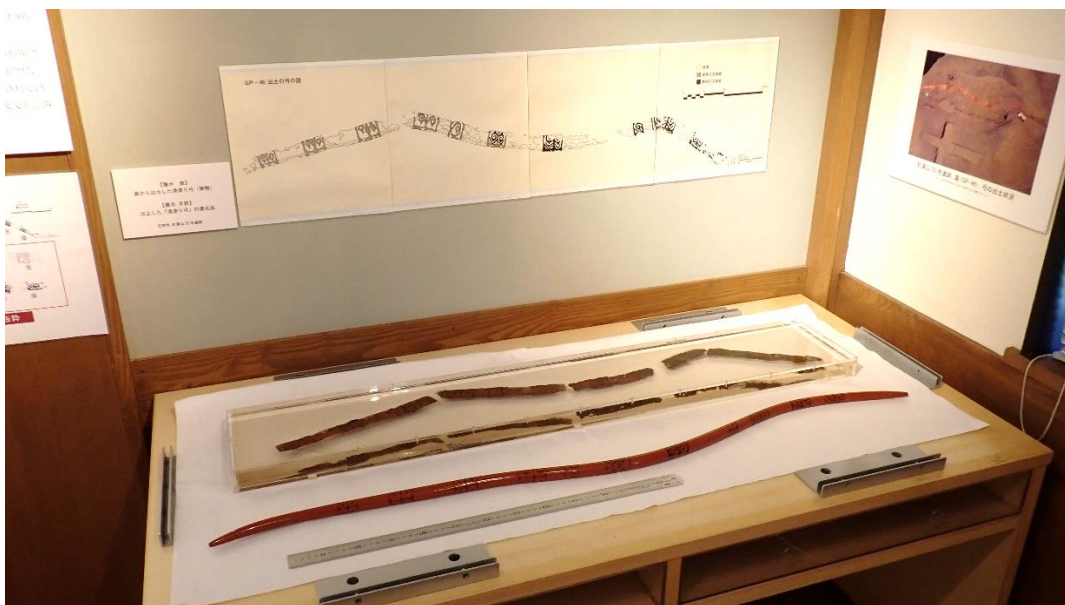


写真2 現在の「漆塗り弓」の状態 ※展示台の奥が実物資料、手前は復元品

(画像：2022年撮影)